

会 場 管 理 要 領

以下は主にコンサート等の興行に関する注意ですが、集会等でのご利用の際にも共通するところがありますので、よく読んでおいてください。

開場前

- ・観客が会場前に、多数集まった場合には、混乱を防止するために整列待機させる。入場券の当日売りを求める観客に対しても同様に売り場より整列待機させる。
- ・入場口において開場時、速やかに入場できるよう観客が列で待機している際、注意事項の広報を徹底して行う。また、場内においては検索等を十分に行い、不審物設置、不正入場等を未然に防止する。

開場時

- ・観客への案内、振り分け及び整列入場の呼びかけを徹底し、入場口及び客席付近での事故、混乱が生じないように、観客の安全かつ速やかな入場に努める。
- ・入場口ではモグリをすると共に危険物及び持ち込み禁止物品のチェックを厳重に行い、発見した場合には入場口にて預かるようにする。

主な持ち込み禁止物品

- ・紙テープ、カラーボール等 ・クラッカー、爆竹、花火等
- ・当日売の場合、立見券となるので、場内指定の場所（図面参照）に誘導する。
（各ブロック別に整列待機させ、開演 15 分前に誘導を開始する）

開演前

- ・開演前に観客に対し、公演に際しての注意事項を繰り返し場内放送する。

主な注意事項は下記の通り

- ・イスの上に立つ、自席から移動する、などは禁止
（立見客は指定場所よりの移動禁止）
- ・階段、通路での立見行為
- ・物の投げ入れ禁止
- ・ペンライト代わりに裸火（ライター、マッチなど）の禁止
- ・会場係員の指示には必ず従うこと
- ・以上の各項目が守られない場合、退場していただく。
それに伴いトラブルが生じた場合、コンサートの中断もしくは中止とする

開演中

- ・自席からの移動の制止及び階段、通路等での立見排除を徹底する。
- ・ステージ前面客についてはフェンス等に触れる者への注意、ステージへ侵入しようとする者の防止を行う。
- ・中段、後段客については特に物を投げたり、フェンス等の前に出たりしないよう注意する。
- ・各通路に降りてくる者に対し、券のチェックなどを十分に行う。
- ・その他、安全確保のために観客の動向には十分注意し、警戒に当たる。

終演時

- ・退場時、出口付近で混乱が生じないように、安全かつ的確な振り分け及び誘導を行う。混乱が予想される場合は規制（区切）退場を行う。
- ・出演者及び関係者車両の誘導には、十分注意する。楽屋口等、混雑した場合には、観客の安全かつ速やかな誘導を行い排除する。

緊急時

- ・緊急事態発生の場合（傷病・事故等含む）は直ちに本部へ連絡する。（各現場チームはトランシーバーなどにより本部との情報交換を密にしておく）本部責任者は、必ず会場側責任者及び消防・警察機関へ連絡すると共に現場チームへ迅速に指示を出すものとする。

<避難誘導體制>

火災の場合

現場担当係員は、直ちに本部へ連絡すると共に消防担当係員と協力し消火作業にあたる。本部通報担当係員は、消防・警察機関及び会場事務所へ連絡する。避難誘導担当係員は、すべての出入口を開放の上、観客を安全な場所への確かつ速やかに誘導する。

地震の場合

係員は、観客がその位置からすぐ移動して混乱が生じないように、十分注意し、状況判断（消防・警察機関等）によっては、場内放送等（ステージマイク等）を使用し、避難誘導を行う。

爆発物予告の場合

電話等による爆発物予告があった場合は、本部責任者の判断により消防・警察機関へ連絡の上、係員は配置ごとに速やかに不審物探索を行う。

万一、不審物が発見された場合には、観客に動揺・混乱を与えぬよう速やかに避難誘導を行う。なお、事前探索を十分に行い緊急事態を未然に防ぐよう努める。

< 救護体制 >

応急救護を必要とする負傷者が発生した場合、現場担当係員は直ちに本部へ状況を詳細に連絡すると共に、本部の指示により救護活動を行う。

警報作動時の対応に関して（誤発報を含む）

自動火災報知ベルが鳴動した場合は、準備中・本番中にかかわらず、2階事務所より原因調査中である旨の館内放送をかけさせていただきます。

* パニック防止のため、必須です。

ただし、事務所の代わりに、主催者側で舞台袖のマイクを使用し案内放送をかけることは可能ですので、技術打合せ時にご確認ください。

* 放送例文は事務所にてご用意しています。

誤作動との確認が取れた後の館内放送も上記に準じます。

日比谷公会堂／大音楽堂 指定管理者

大星ビル管理・共立・日比谷アメニス共同事業体

2008.4.1